〔第三種郵便物認可〕　昭和七年十二月六日　磐城新聞　〔火曜日〕　第三千五百九十七號　〔一〕

夕刊
磐城新聞
十二月五日發行
定價 月極 金五拾錢 郵送 金六拾錢
廣告料 金一行 通常 金拾錢 電話二行 金拾錢 特殊 金拾錢
編輯兼印刷發行人 柏木哲
印刷所 福島縣石城郡平町田町十六字地蔵
發行所 磐城新聞社
登録番號 第五五五號 電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）

貧農のたはごと

——S生こと、鈴木君？へ寄す——

プラタナス編輯同人　吉澤　健

多くの朋輩誌友からお手紙を頂いて、返事も書かずにしまつて申譯ない。

詩南車短歌會の招待に對して詠草も送らずにしまつて濟まなかつた。

十一月の月を殆ど外に過ごしてしまつたのですから許して欲しい、言譯らしい眞實を語つて言譯とする次第——。

十一月の十四日附を前後して三回、平町S生より忠告めいた手紙が留守の私宅に着いてゐた。有難い樣な有難くない手紙……S生とは平町近在に居を持つ小地主の小倅鈴木次雄君？のことだらう（でなかつたら御免）僕が郡山にゐた頃一寸知り合つた程度の人だ、何んでも僕達よりはずつと偉い人だと想像してゐる。S君にのみと思つて書いたのだが、S君とその周圍の人々に送ることにする。

S君、君からの手紙しつかり讀んだ、君の言はれる通り、僕はたしかにプロレタリアである、そしてプロレタリアの一兵卒として、若い盛激の血を燃えたゝせたことも有つた。そした頃の僕と現在の僕の態度に疑を抱く、君の心底は無理からぬ事であらう。

僕は僕一個人の生活の安定のためにすべての主義を捨てはしない、しかし僕は從來叫びつゞけて來たマルキシズムに對して未だ正確な見解のないことを悲しんでゐます。

人類平和のため、現制度つまり資本主義社會に幾多の××と×××を×××せるこそれを意識出來ない相手即ち百姓達がいけないと言ふか。

で、君達は今一回貧農の生活を知り、そしてその苦しみを体驗する必要が充分ある。

S君、僕は假面をしたわけでもなく、又ぬぐ必要も感じない、たゞ僕の體が必然の道を巡つたに過ぎないそれだけだ。

彈壓のための屈服でもない、行くべき道の最善のたい、行くべき道の最善のたが人類平和建設をいきごむ方向を變へたに過ぎないもの殊に世相の動きの何たるを知らね百姓、農村モラトリアムがどうで、自力更生はどんなことか、北海道とは否定出來ないでせう。そしてその××には一寸考へる餘地もないでせう。

僕は現在の境遇に安住することは勿論ない、少なくとも人類平和のために微力を捧げる事に於て何の異存があらうか、しかし、君達が人類平和建設をいきごむ時、常に武裝的、否武裝し敵を征服せん事のみ念願とした。意識あるものないもの殊に世相の動きの何たるを知らね百姓、農村モラトリアムがどうで、自力更生はどんなことか、北海道開にも尙ほ食ふに困る貧農人類平和、そして踏みつけられ、搾りつゞけられてゐる者の開放自由の、それ故の運動には僕も双手を擧げ贊成の意を表す。

たゞ貧しい者の生活におかまひなく遊び半分の運動であるのなら、僕は何時何處までも君達と歩みを共にせねばならない。

S君、プラタナスで木田兄が言はれた樣に僕達貧農の眞の生活は決して詩的でもなければ愉快でもないのだ、何處かのお嬢さんの樣に田園讃美者であつては困る。

黑土十二月誌上に於ける君の『高等女學校と農村子女敎育』にはほゞ同意見、農民文化誌上の『生産と販賣』は解しかねる。

重農主義——こいつは僕達貧農に後ずさりを敎へた過ぎない、モダニズム（農村生活のモダーン化）こいつもプチブル思想が育ぐくんであはい夢にのみ過ぎなかつた。

僕は働らいてゐる、尙×××××に對しも出來るだけ研究を忘れない、そして貧しい中からボッ發する不平不滿を、共に働らく貧しいこの田園の人達と叫ぶことにしよう。

——一一、三〇——

『あき』（自由詩）

中川　浩

秋の濱邊は潮鳴りが
遠くかすかにするばかり
濱邊の道のかえん豆は實
もはせて
月見草も枯れました
靜かに坐る砂の上
砂も冷たく身に沁
みて
乙女心は秋ゆへに
遠くの君の想はれる。

〈嘆きの一夜〉

新妻　敏男

苦痛は私を
齡知れぬ森奥く誘ひ
星の片が落ちたと言ふ
槇の根本に
狂氣した娘のやうに
苦痛を葬つた
だが不幸な事には
傾きかけたひがみが
青春を苦痛と一緒に
追憶の彼方に
葬つて終つた事とす

時代警語

○青天白日的節義は暗室淫居の中より培ひ來る。旋乾轉坤的經綸は深に臨み薄きを踏むの處より繰り出さるゝ……（洪自誠）

智は窮して苦しむより生するもので膽はしばしば危きに臨むによつて躓はるものである……

磐城新歌壇

小山田滋選

守川　健

○ひねもすを野良に過ごして歸る身に梢の月はさやけかりにし

田部　春子

○初霜に凍てにけるらし姫かんの朱實こぼれ居り朝土の上に

○霜曇り雲のきれ目を時折に薄陽もるゝは待遠しけれ

○霜枯の桑の葉ずれは折々に寂しき音をたてにけるかな

○たくり來し熟柿を食へば故郷の幼き吾となる思ひなり

○ひねもすを野良に過ごして歸る身に梢の月はさやけかりにし

田部　春子

○初霜に凍てにけるらし姫かんの朱實こぼれ居り朝土の上に

○霜曇り雲のきれ目を時折に薄陽もるゝは待遠しけれ

○霜枯の桑の葉ずれは折々に寂しき音をたてにけるかな

○たくり來し熟柿を食へば故郷の幼き吾となる思ひなり

地方が水害の爲に苦しんでではあるが、もし田作りの人達が眞實を知ることに於て作物を生成することに於てみんなが貧乏するのだ資ちんにも打ち碎かれなければならない空論となるのだ

君の唱へる樣に若し百姓の世界に八時間勞働制があつたとするか、完全な害虫の驅除、排水灌漑も出來ることであらうか、何時發生するか分らない之等生物の敵のためにも百姓は常に忠實な味方でなければならない。

S君、君がそのヘナ〳〵時計をかなぐり捨て眞實人を使用してゞなく、百姓生活に身を投ずる時に於て僕の現存の態度も自から了解出來るであらう。

ある灰色の星の衣を纏ふた心はぼつかりした墓場に惑ひ憂鬱に混つた眸はもう斯んなに老けてしまつた。

講談　お蘭陀お蝶

（199）

渡邊默禪作

布施長春畫

『是れが所謂こふぶくしまの本誓瑜珈三密の神力でなる方法を敎へる』

『ど、ど、どうぞ、お願ひ申しまする』

恰ど此の時が次の洞でお蝶が偃つ反つの苦悶をしてゐる那裡である。

お蝶は是より先三人の爲に手酷い脅迫をうけた、けつれども力の限り反抗して甚麼しても諾とはいはなかつた、流石の慈黨も手古摺つて打つたり蹴つたりした上に再び、猿轡をかけたなりにぶいと飛出して了つた。

さうして興平が來る時刻に酒や肴を洞の外へ持ち出して後の山蔭深く姿をかくした、お蝶はその後に殘されて口惜泣きに泣いた。と、前の洞で聞慣れない人聲がする、興平〳〵といふのも耳に入つた、不審でならぬ長棒駕籠を大勢の小ものので荷物に括しつけられたなりに其の繩を曳いて口の處へ出た、前に立つてゐる石不動の蔭から隙して窺いて見るとそれが意外にも養父と近所の百姓であつたのが、情ないことには全く身体の自由を失つてゐる。

聲を出して喚ばうとしても口には猿轡馳出さうとするも、括された繩が犇と手に喰込んで、後から強く〳〵曳戻される、堪りかねてわつと泣いた、泣いたがその聲も父の耳には達かぬ、打倒れてばた〳〵と跪いた。

跪けば跪くほど手が疼む息

火生名三味證說此大ざいしよう眞言、此眞言有大威勢で飛立つばかりに悅んだ能除一切修眞言者種々障難といふのぢや、何と神變不思儀なものではないか』

四人は醉つたやうな心地で瞳を据えたまゝで身動きもしない。取分け興平は嬉しいのと有難いのとで、ぼろ〳〵泪を滾した

『ぢやがだ、此の娘を無事に取戻したいといふには、少し骨が折れるな』

『いやもう、そりやア何樣に骨が折れましても戻してさへ下されば……』

『ハハア、厭はんといふのか、それでは私が救け序に目の前に見えてゐながら言葉一つ交す事も出きないのである、お蝶の苦悶は死よりも辛かつた。

寂光坊は右の指を擧げて何か空中に梵字を描いた。

『ハ、ア、成程左樣でございますか、はい〳〵承知仕つる』

『難やらと談でもしてるやうな氣配、四人の目は瞬しく上に向く

『興平殿、只今四大金剛に承まはつた所が、個樣に御意召さる』

× ×

此の日の夕景、白川の興平の住居へ不思議なお客が舞下つた。

實際不思議だ、舞下つたといふのが最も適切な辭である、網代二重腰の立派な駕籠が停つたのであるから村人はいづれも喫驚して目を欹てた。

『大方此の草の家らしいと存じられまする、それがし案内仕つる間、暫時お待ち遊ばさるゝやうに』

打裂羽織の武士は駕籠側で爾う云つてから竹のしほり戸をあけて庭先へ這入つた。

『頼む、興平とやらは當家かな、頼むッ、コレお蝶やお蝶は居らんか』、

呼んでも返辭がなかつた

ラヂオ

……六日…〔火曜〕…

仙臺　JOHK

△前七、〇〇　八、〇〇A　ラヂオ體操
△九、〇〇　氣象
△九、一〇H　料理献立（ボークデブルスチュー）宮城縣食肉協會　日用品値段
△一〇、三〇A　家庭講座（古衣服廢物利用）服部輝子
△正午　A　時報・氣象
△後〇、〇五H　名作物語（人形の家）ン…原作　秦春堂
△〇、四〇A　ニュース
△二、〇〇A　家庭大學講座（明治の文學自然主義後期…花袋、藤村、白鳥等）本間久雄
△三、四〇A　氣象
△四、〇〇　ニュース
△五、〇〇A　受驗講座（漢文）塚本哲三
△五、三五　講演（同情週間に際し）仙台市社會課長佐々木晋
△六、〇〇（子供の時間）獨唱と齊唱　山形縣新庄町小學校兒童
△六、一〇　コドモのシンブン　村岡花子
△六、二五　英語講座（中等科）萩原恭平
△六、五五　カレント・トピックス　ハロルド、バーマー
△七、〇〇A　ニュース　氣象
△七、三〇A　國際時局特別講座（列國の國際聯盟に對する立場）東大敎授法學博士神川彦松
△八、〇〇A　ヴアイオリン獨奏　ヨゼフシゲツテイ
△八、四五A　歌澤（一、上り下り　二、年の瀬）虎左多榮
△九、〇〇A　忠臣藏花暦…落語（五段目）三遊亭圓生
△九、三〇A　時報
△九、三一　滿洲より…講演（鮮農現地保護に就て）ニュース　氣象

社會の今日

6月12日

△水戸黄門薨ず（元祿一三）
△照宮成子内親王御誕生（大正一四）△東京市電從業員總罷業（昭和四）

○

巖頭に陽を打ちあげて
冬の浪　杉也

奚るゝや千菜にすがる
夕雀　幸叢

大塚の特賣
◎男女耐久學生靴五圓より
◎七五三御祝小供靴八十錢より
◎同　小供ゴム長靴四十錢より
最新形入荷
◇アンダーシャツ
◇オバーセイタ
◇流行シャムバー
各種豊富に安價に！
大塚製靴運動具部
平田町　電話七七番

開店御披露
各位倍々御清祥の段奉賀上候、扨て去る八月一日類燒以來休業致し居り候處愈々落成昨日より從前通り開業致し候間舊に倍する御贔負御引立を相仰ぎ度偏に御願申上候
十二月五日
平町南町川岸通
玉よし
電話四二六番

江戸前
當店に於て自慢の
大蒲燒
割烹
壽司
開業以來
特に『都壽司』は江戸一流の職人を迎へて食通の皆樣方に御賞讃を頂きお蔭樣にて大繁昌をいたして居ります。
都壽司は魚榮と御思召して……
御ひゐき下さる樣御願申上げます。
田町　魚榮
電話四二四番

難波醫院
内科
一般
醫學博士　難波睦
平町大町新川端（電話五〇二番）

有給社員招聘
經驗ノ有無ヲ問ハズ奮鬪ノ士ヲ望ム
在鄕軍人、退職官吏優遇
（初任者指導ス）
希望者ハ履歴書急送アレ
郡山市堤下三二番地
富國徵兵保險相互會社監督部
徵兵保險ハ相互ニ限ル本邦唯一ノ相互保險

吸入用酸素
純度99%
◎秤ノ取ッ糸・修ッ垂ッ緒ッ援致シマス

度量衡
モノサシ
マス
ハカリ
計量器
体温器
寒暖計
關内藥局
電話四〇番

金銀高價買入
純金八圓五十錢
大判　廿二金七圓一〇〇錢
小判　廿金六圓一〇〇錢
十八金五圓五〇錢
金歯六圓三十錢
以上一匁ニ付
確實高價買入
金光堂時計店
平　電五九一

氣管、食道科、耳鼻、咽喉科、
平町南町
増田耳鼻咽喉科醫院
（元眞木辯護士跡）
電話四八二番
（入院隨意）
專門

夜診
胃腸
内科
十二指腸虫病
專門
内科部
極毒
淋病
皮膚病
婦人病
專門
外科部
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電一〇七番）
療間

安價で効果的な
最も適應する作物!!
天然加里肥
蔬菜、馬鈴薯、里芋、しやうが類
◇ナス類ではトマト、ナスの如き比較的病害に弱い作物に施用すれば抵抗力を與へ落果を防ぎます。
天然加里肥は酸性でないから
如何に施用しても土壤を惡變する爽は絶對にありません。
一俵三十錢
平町鎌田
製造販賣　金成國雅
（大量取引は特に割引致します）
電話六八八番

月曜論壇

磐中よ何處へ行く

所謂師長の恩が四恩の一として尊崇さるる所以のものは師弟間の愛情なるものが普通一般の交渉とは異り實に蒼生に對する國王、親ぶ處無きが故で師弟間の交情こそは全然何等の例外なしに誠意と眞實の持ち寄りであらねばならぬ事、茲に更めて絮說する迄も無く之の意味に於て尊ばるべき教師が愛せざるべからざる生徒を毆つた磐中今次の騒ぎこそは地方教育界に於ける近來の一大不祥事として互痛歎に堪へざる事である

×

不文律的に或る程度の懲戒權を有する否附與されねばならぬ教員なるの故を以て適々生徒に如へたる私刑的直接行動が正當化さるる事は絶對に無いと同時に之れ無きを奇貨として生徒が無限軌道的に奔放な脱線をしても良いと云ふ反面解釋的の理論も亦絶對に成り立たない。

×

併し乍ら毆らんとする瞬間の意圖は程度の差こそあれ相手方に對して精神的肉体的に不善の壓迫を加へ之を征服せんとするもので、之を敢てせんとする舉手投足の剥那は既に師長の領域から遙かに○○の群に飛び込んだ時で嚴格に之を云へば根本から教員として齒すべき問題でないかも知れぬが本問題は將來に寒心すべき惡例を胎す事件として此際他迄之を糾明し置く事が必要である。

×

聞說。最近の磐中には校紀を維持する意味に於て往々聞き逃がし難き奇怪な風聞が吾人の耳朶を愕かしつつある許りか卒業生の上級學校受驗成績が著しく低下し從來十名内外を算して居た高等學校入學者の如き今年は僅かに一名に過ぎなかつた等の事に徴し卒業生の素質低下は今や一點疑ふの餘地がない。磐中よ何處へ行く、教員諸公の内省一番を求めざらんと欲するも能はざるものがある。

各種問題を指摘して 同窓會代表校長に迫る

横井教諭の毆打事件擴大

既報―磐中の体操受持教員て懇談した結果學校側の誠意に就て些か腑に落ちぬ節つたに於ける子の干繋と何等擇横井勝（高師卒）氏が過般五ぶ處無きが故で師弟間の交情こそは全然何等の例外なしに誠意と眞實の持ち寄りであらねばならぬ事、茲に更めて絮說する迄も無く之の意味に於て尊ばるべき教師が愛せざるべからざる生徒を毆つた磐中今次の騒ぎこそは地方教育界に於ける近來の一大不祥事として互痛歎に堪へざる事である

×

不文律的に或る程度の懲戒權を有する否附與されねばならぬ教員なるの故を以て適々生徒に如へたる私刑的直接行動が正當化さるる事は絶對に無いと同時に之れ無きを奇貨として生徒が無限軌道的に奔放な脱線をしても良いと云ふ反面解釋的の理論も亦絶對に成り立たない。

×

併し乍ら毆らんとする瞬間の意圖は程度の差こそあれ相手方に對して精神的肉体的に不善の壓迫を加へ之を征服せんとするもので、之を敢てせんとする舉手投足の剥那は既に師長の領域から遙かに○○の群に飛び込んだ時で嚴格に之を云へば根本から教員として齒すべき問題でないかも知れぬが本問題は將來に寒心すべき惡例を胎す事件として此際他迄之を糾明し置く事が必要である。

×

聞說。最近の磐中には校紀を維持する意味に於て往々聞き逃がし難き奇怪な風聞が吾人の耳朶を愕かしつつある許りか卒業生の上級學校受驗成績が著しく低下し從來十名内外を算して居た高等學校入學者の如き今年は僅かに一名に過ぎなかつた等の事に徴し卒業生の素質低下は今や一點疑ふの餘地がない。磐中よ何處へ行く、教員諸公の内省一番を求めざらんと欲するも能はざるものがある。

横井勝氏（高師卒）氏が過般五ぶ處無きが故で師弟間の交情こそは全然何等の例外なしに誠意と眞實の持ち寄りであらねばならぬ事、茲に更めて絮說する迄も無く之の意味に於て尊ばるべき教師が愛せざるべからざる生徒を毆つた磐中今次の騒ぎこそは地方教育界に於ける近來の一大不祥事として互痛歎に堪へざる事である

×

不文律的に或る程度の懲戒權を有する否附與されねばならぬ教員なるの故を以て適々生徒に如へたる私刑的直接行動が正當化さるる事は絶對に無いと同時に之れ無きを奇貨として生徒が無限軌道的に奔放な脱線をしても良いと云ふ反面解釋的の理論も亦絶對に成り立たない。

×

併し乍ら毆らんとする瞬間の意圖は程度の差こそあれ相手方に對して精神的肉体的に不善の壓迫を加へ之を征服せんとするもので、之を敢てせんとする舉手投足の剥那は既に師長の領域から遙かに○○の群に飛び込んだ時で嚴格に之を云へば根本から教員として齒すべき問題でないかも知れぬが本問題は將來に寒心すべき惡例を胎す事件として此際他迄之を糾明し置く事が必要である。

×

聞說。最近の磐中には校紀を維持する意味に於て往々聞き逃がし難き奇怪な風聞が吾人の耳朶を愕かしつつある許りか卒業生の上級學校受驗成績が著しく低下し從來十名内外を算して居た高等學校入學者の如き今年は僅かに一名に過ぎなかつた等の事に徴し卒業生の素質低下は今や一點疑ふの餘地がない。磐中よ何處へ行く、教員諸公の内省一番を求めざらんと欲するも能はざるものがある。

生徒の號令取次ぎが癪

―毆つた前後の眞相―

當日體操時間中で校庭を整て鐵拳を加へ野崎組長の取列進行中横井教諭の發したなしで一旦之を放したるも藤某が『諸君止め給へ』と叫んだ處、之を何と解したものか横井教諭は之に激怒し左右の非難が高まつてゐる

磐中人國記 五

赤井嶽男

△完成された人々

3 金子久治氏（平町）

舊藩の一人。第一回の同窓會長に擧げられた處から觀た高等學校受驗者の如き今年は僅かに一名に過ぎなかつた等の事に徴し卒業生の素質低下は今や一點疑ふの餘地がない。磐中よ何處へ行く、教員諸公の内省一番を求めざらんと欲するも能はざるものがある。

陵から東大工科を出で、土木の技師として最初から内務省に入り今では下關土木出張所長、從四位勳四等、今を時めく勅任技師として日午後一時から平町マルトモホールに開催非常な盛會で左の決議宣明書を參謀本

擧町赤誠を吐露

昨徴兵令發布記念日の 決議及宣明書

陸軍省軍務局歩兵少佐池田純久氏の徴兵令發布六十年記念時局軍事講演會は昨四

米再た値上げ

今後尚ほ騰貴しても 永續きせぬ見込

漸騰の氣配で進んで居る米價は今月に入つて僅か五日間に俵當り四十錢の騰貴で今五日の相場は四等地米八圓九十錢の高値を示すに至り平米穀商組合では昨四日から再た一斗五厘の値上をした

△上白一斗一八〇厘　△中白一七五　△並白一七〇　△田舘二一〇　△陸糯二〇〇　△搗麥一〇〇ふ

尚玄人筋の觀測によると今回の暴騰は政府の公債政策と減收が最大原因を成したもので季節的に今月は低落すべき時でもあり窮乏した農村の現狀は年末が押迫るに從ひ弗々賣りに出る爲今後幾分値上りしても永續きすまいとの事である

。。。